

また、惜しくも無冠の勝者となったみなさんは以下の方々です。

04 C 8169 崔英 04M3377 申永日
 04M3380 楊森 04 C 8182 劉贛玥
 04M3381 楊艷華 04 J 1378 劉彤旭 (敬称略)

最後に一言。外国語コンテストは1年生だけの行事ではありません。次回の挑戦を待っています！また、日本人学生のみなさんはコンテストに参加できませんが、ぜひ聴衆として留学生の声を聞きに来てください。 (梅田康子)



外国語コンテスト入賞作



英語部門

第1位 Earth-being

(白鷺)

Hello friends! Maybe you are wondering what “earth-being” means. I must confess that I made this English word. If you want to know more about “earth-being”, please listen to me carefully.

The first time when I heard the word was in my high school life. One day in Japanese class, the teacher said the word “earth-being”. I can’t remember the situation when she said that because I was thinking of some more interesting things than the class. But I can remember very well what she said then. She said, “If someone asks you where you are from? How will you answer?”..... (Ask the audience the same question)... My Japanese teacher said that she is from the earth, so she is an earth-being. Don’t you think that her answer is very unique?

At that time I just thought “earth-being” is an interesting idea. It was not until I took Mr. Ono’s class this year that I realized the importance of the word. We discussed “peace” in the class. We perceived that the meaning of peace is different for different people. Some people think that if everybody is happy, that is peace! But other people who are concerned more for themselves than for others will think that peace is having big power and a lot of money. If those people do have big power or a lot of money, that means a number of people will be poor or in a dangerous condition. They will think that is peace and happiness, but it will not be peace for a large number of people. Maybe war will occur by such thinking. What is the most

important is that everyone thinks of not only his or her happiness but also others' happiness.

Please remember the word "earth-being". This easy word has a big power to make human beings stop conflict and war. Today, we do not just live in our own country, like me. We are interacting with foreign people every day, every time, through the Internet, newspaper, television, and so on. The Internet changed information from being a one way street to a two way street. Individuals can send their information to the world in a minute. And if you are majoring in management at this university, you know companies can't run without dealing with foreign companies. All of these realities show that more than the fact that you are Japanese or I am Chinese; we are living on this planet, the "earth", aren't we?

If we are all "earth-beings", all of us will be a brotherhood, and then we will love each other; and love our common home more and more. Maybe "earth-being" is not a good word to unite humankind, but today if you are interested in my speech, please find a much better word, and tell me, tell all the people living on this same planet. I am looking forward to your answer. Thank you.

日本語部門

第1位 やればできる

劉 是呈

皆さん、今日は！

中国から来た留学生、劉是呈と申します。今日、自分は日本で経験したことを話したい、皆さんに聞いてもらいたいと思います。

最初日本へ来たばかりの時、アルバイトがなかなか見つけれなくて、学校以外の時間はほとんどテレビを見ることで済ませました。日本語の聞き取り能力を高められるし、日本の文化もよく理解できます。当時、高校を卒業したばかりで社会経験が全くなく、ただ一人で日本に来た私にとって、何にも分からない異国の社会を理解できるようになる方法と言え、テレビを見るのが一番いいと言えるのではないのでしょうか。今でも、暇さえあればよくテレビを見ます。その中でも、最も印象に残っているのは「明日があるさ」というドラマです。そのドラマで、社員たちはいろいろ研究を重ねて、新しい商品を作り出しました。いろいろ努力をした結果、その新商品によって倒産しそうだった会社を救ったという話でした。私は、初めてこういうようなドラマを見たからかもしれませんが、すごく感動しました。しかし、なぜ感動したのか、あの時、考えようとしなかったのです。

来日から半年、私は多くの留学生と同じく、アルバイト生活を始めました。今までいろんなバイトをしてきましたが、最も印象に残っているのは、初めてのバイトです。それは飲食店のバイトでした。その店長は二十五、六歳の人で、私よりただ五、六歳うえの人です。そんな若さで全国チェーン店の店長までやってるなんて、きっとなにか才能があるんじゃないかなと思いましたけど、付き合ってみたら、別に特別なところがなかったのです。しかしある日のできごとで、私の考えが変わりました。

あれはある土曜日のことでした。店の一番忙しい曜日でしたが、二人の人が病気で休んで、みんな

な手がまわらない状態で、必死に働いたのです。午前中だけでも死ぬほど疲れました。それから休憩の時間がようやく来て、「助かったなー」とみんなは感じました。早速、二人ずつ交替で店の二階に休憩に行き、ほとんどの人は上にあがるとすぐに寝てしまいました。それほどきつかったんです。私も、午前がこんなに忙しかったら午後はもう大変なことになるなー、と休憩前から気が重かったんです。それで全員休みが終わって、まるで戦争を迎える軍人のように、皆準備している時、店長だけ休まなかったことに気付きました。聞いてみたら、「俺は店長だから当たり前だぞ」と言われました。その瞬間、私は「明日があるさ」というドラマを思い出しました。なぜあの時感動したのか。それになぜ目の前の若い人は店長までやっているのか、全て分かりました。日本人が一番大切にするのは、才能だけではなくて、責任感とやればできるという頑張る気持ちなんだ！

結局、その日はとっても忙しかったんです。帰り道に、店長のとても歩けなさそうな姿を見た時、この若い人を心から尊敬する気持ちが生まれました。

皆さん、留学生のアルバイトをしている姿をよく見かけますね。もしかしたら、居酒屋のほうが大学よりよく会うかもしれません。「留学生ってアルバイトばかりしているんじゃないの？勉強の時間がないんじゃないの？」と思ってる人も多いかもしれません。しかし、アルバイトは、留学生にとって、ただのお金をもらう道というわけでもないんです。私は将来日中ビジネスをやりたい。そのためには多くの日本人と接して、日本の文化や考え方をよく理解することが大切だと思っています。私と同じ考えを持っている留学生は決して少なくありません。

「やればできる」こんな素敵な、日本人が自慢できる伝統的な精神は、私の場合、アルバイトをするなかで学んで来ました。そして、今、この「やればできる」精神は、職場だけではなく、学業や生活の様々な面でも生きています。

留学生の皆さん、この「がんばる気合」を身に

付けてください！それに日本人の皆さんも素敵な伝統精神を守り続けてください！

「やればできる」どんな困難なことにも克つことはきっとできる。今、学生であっても、将来の目標に向かって全力で行く社会人であっても、や・れ・ば・で・き・る、この六文字の魔法の言葉を忘れないでください。身に付けているものを発揮すれば、さらにやる気を出せば、我々の未来はきっと明るいのだ。

それは.....間違いない！

第2位 日本、ありがとう

潘 子剛

2002年、私は朝日奨学生として、日本に来ました。私は一人っ子なので、家で甘やかされて育ちました。子供のころから苦しみに耐えるような経験もなかったです。もし、日本に来なければ、たぶん中国にいて、新聞を配達することなど一生なかったかもしれません。

新聞の配達は、一番大変な仕事だと思っています。朝2時から6時まで、午後は2時から5時まで、毎日仕事しました。雨や台風の時でも仕事しなければなりません。時々エレベータのないマンションもあって、そんな時、下から上まで階段をのぼるしかありませんでした。

最初、仕事を始めたばかりの時、バイクに慣れていないので、よく転びました。ある日、たくさん新聞をのせて坂をのぼっている時、新聞が重くて、バイクが倒れてしまいました。私もけがしました。足がすごく痛かったです。涙が目ににじんでいました。それでも家族に心配かけないように、両親にも言わなかったです。

それだけでなく、店に「日暮」という主任がいました。私はいつも言い訳していましたが、よく叱られていました。最初、彼を恨んでいました。私はいつも叱られていることを両親に話しました。すると、両親は主任が正しいと思ったようです。「あなたは主任にありがたいと思うべきなのに、

何で恨んでいる？主任が仕事のために叱ることは当たり前だ。そして、それはあなたの自分のためにも役に立つんだよ」と言いました。その後、私も考え方が変わりました。

日本社会は競争が激しいです。留学生として日本で生きるために、私達は日本人よりもっと頑張るしかありません。毎日プレッシャーを感じ、ときに日本人からさげすみを受けます。ですから、日本が嫌いになる人もいます。日本人を恨む人もいます。しかし、私は日本と日本人にありがたいと思っています。

1300年前、中国人は日本人の先生でした。日本人に文字や文化などを教えました。1300年後の今日、日本人が中国人の先生です。中国人になぜ頑張るか、どうやって頑張るかということをお教えています。私達は強くなることを勉強しました。私達は逆境で生きるということをお勉強しました。それは、中国語で「煉獄亦天堂」、つまり、苦勞を種に花を咲かせるということです。

人間は、誰でも鍛えられながら成長しています。今、私は別のバイトをやっています。前のようにいつも店長に叱られています。でも、私は店長を恨んでいません。なぜなら、店長が私を助けてくれているからです。

日本に来てからもう2年になりました。この2年間、私は日本人にありがたい、日本にありがたいと思っています。本当に言いたい、「日本、ありがとう。」

ご静聴ありがとうございました。

公開講座「言語」2005 プログラム

主催：愛知大学言語学談話会

共催：愛知大学語学教育研究室・愛知大学同友会

場所：愛知大学車道校舎 461-8641 名古屋市東区筒井 2-10-31 TEL: 052-937-8111 (地下鉄桜通線「車道」下車, 1番出口より徒歩1分)

時間：14:30～16:30

聴講無料

公開講座「言語」30周年記念講演会

2005年7月9日(土) 車道校舎本館1005教室(予定)

「マイケル・トマセロと言語研究 ―21世紀の言語学は何を目指すのか―

伊藤 忠夫 (中京大学教養部教授)

<後期> 車道校舎本館1003教室 (予定)

2005年

(5) 9月17日(土)

「フランス語初級学習者の弱点について」

田川 光照 (愛知大学経営学部教授)

(6) 10月1日(土)

「身体性から見る日本語文法 ―時制形式の意味機能―

山本 雅子 (愛知大学国際コミュニケーション学部助教授)

(7) 11月5日(土)

「ウェブスター辞書の伝統」

早川 勇 (愛知大学経済学部教授)

(8) 12月3日(土)

「エッセーの言語 ―モンテニユを読む―

高橋 秀雄 (愛知大学文学部教授)

2006年

(9) 1月7日(土)

「日・中・韓の言語教学雑感」

陶山 信男 (愛知大学名誉教授)

編集後記

友人がヘブライ語を勉強中である。と言っても旧約聖書を研究するためではなく、ただ単にヘブライ語を学習することそれ自身が目的なのだそう。彼女の本職は理科教師。大学時代には理学部で応用化学を専攻し、ドイツ語とロシア語を選択した。その後イタリア語を独学で身につけ、現在はイタリア人とインターネット上で交流したりもしている。英語とラテン語もそれなりに出来る。彼女の場合、資格取得や実益とは一切無縁のところ、これだけの外国語を学んで身につけている点が目玉に値する。

今号の表紙の写真と解説文は一年間の牛津留学から帰国した多田先生の提供による。このBiburyは詩人・工芸デザイナーとして名高いウィリアム・モリスが「英国で最も美しい村」と呼んだ。(S.A.)